

聖書:使徒の働き20章13~38節

説教:神の恵みのことば

はじめに

パウロは生涯のあいだに三回の伝道旅行に出かけたことが知られています。今日開いている所は、その三回目の伝道旅行の帰り道に起きたことが書かれています。いろいろな地名が出てきますが、みなさんがお持ちの聖書の後ろに地図が載っているので確認してみてください。パウロは五旬節までにはエルサレムに帰りたかったのですが、乗っていた船は電車であれば各駅停車の船で、ゆっくりとしか進まない。パウロが特別な思いがあるエペソ教会に立ち寄る時間はありません。そこで、わざわざ使いを送ってエペソ教会の長老たちに船のところまで来てもらうことにした。そこでパウロは、大きく分ければ三つのことを語っています。一つ目は自分が何をしてきたのか。二つ目はあなたがたはこれからどうすべきか。そして三つ目は、そのために神はどんな助けを与えるのか。

1 パウロ

1) 涙とともに主に仕えてきた

そこでまずパウロが何をしてきたかについてです。19節。「私は、ユダヤ人の陰謀によってこの身に降りかかる数々の試練の中で、謙遜の限りを尽くし、涙とともに主に仕えてきました。」パウロは自分が謙遜であることを自慢したいのかもとれる文章ですが、もちろんそんなわけはなく、言い換えればこういうことです。「ユダヤ人の陰謀によって降りかかる数々の苦しみを涙を流しながらぐり抜けながら、私は謙遜にさせられてきた。そのようにして主に仕える者となりました。」

確かにパウロは、これでもかというくらいユダヤ人たちから迫害を受けてきました。そのときパウロがどんな気持ちだったのか、実はあのとき牢に入れられむち打たれ、脅迫され、いのちからがら町から脱出しなければならなかったとき、どんなに悔しかったか。ほんとうにつらかった。パウロは珍しく弱音を吐いている。親しくなければこまでは言えません。パウロとエペソ教会の長老たちとの間にしっかりとした信頼関係があったことを示しています。

2) 信仰を証ししてきた

パウロが何をしてきたのか。もう一つあります。20, 21節。「益になることは、公衆の前でも家々でも、余すところなくあなたがたに伝え、また教えてきました。ユダヤ人にもギリシア人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰を証ししてきたのです。」

伝道者として召された者が、福音を語るのはあたりまえです。でもパウロが言いたいのは、何を伝えてきたのかです。「益になること」と言っています。それはなにか。いまなら株や金(きん)などの投資で儲けるとか、どうしたら会社経営がうまくいくか、そんな類の話だと思われるでしょう。もちろんパウロが言いたいのはそういうものではない。神に対する悔い改めと主に對する信仰。これがユダヤ人であろうがギリシヤ人であろうが、もっとも大きな益になると信じて、どこに行っても証ししてきた、というのです。世の中お金だと思っている人から見れば鼻で笑われる話しです。しかし、私たちは知っています。この世でどんなに富をたくわえても、結局は私たちはそれを手放さなければならぬときが来る。いつかなくなってしまうものを求めるのではなく、むしろ永遠のいのちを求めなさい。それこそが最大の宝だから。その永遠のいのちをいただくために、罪を悔い改めてキリストを信じなさいと証した。

3) 二度と見ることはないだろう

パウロ自身、自分のいのちについてはこう思っていました。24節。「私が自分の走るべき道のりを走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を証しする任務を全うできるなら、自分のいのちは少しも惜しいとは思いません。」私も迷わず、はっきりとこんなふうには言えたらと思うのですが、なかなか難しい。でもパウロは、本当にこう信じていたのでしょうか。エルサレムに帰れば、ユダヤ人たちから大きな迫害を受けて、いままでにないような苦しみにあうだろうということはもう誰もがわかっていた。それでもエルサレムに帰る覚悟は揺らがない。それで、エペソ教会の人たちはこれが最後の別れになると、パウロの口からはっきりと言われて、みな泣き出してしまいます。

2 訓戒

1) まず自分自身に気を配りなさい

パウロが語ったことことの二つ目。今度は、教会に対する訓戒です。28節。「あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。」

もう再び会うことができないと覚悟したとき、一番大切なことを伝えたいと願うはずです。パウロの場合はこれだった。群れの全体に気を配りなさい。聞いているのは教会の長老たちです。いまさら言われなくてもあたりまえのこと。いっけんそう思うのですが、さすがパウロ。あたりまえのことは言っていない。何に気を配れと言ったか。群れの全体に気を配る前に、まず自分自身に気を配れと言っている。

2) 群れを荒らす者が現れる

ではなぜ気を配る必要があるのか。それが29、30節です。「私は知っています。私が去った後、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。また、あなたがた自身の中からも、いろいろと曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こってくるでしょう。」

涙を流しながら建て上げてきた教会が、自分が去った後、教会の中に凶暴な狼が入り込んできて容赦なく群れを荒らし回るだろう。パウロがどんな気持ちでこう言ったのだろうか。こんなつらいことはない。最初からこの人は狼だとわかればいいのですが、狼は必ず羊の皮を被って変装してきます。ですから最初はわからない。それが後になってから本性を現し、羊を食い荒らしていく。こんなことを聞いてびっくりするでしょう。この教会は幸いにしてこんなことはなかった。でもこういうことは決して珍しいことではなく、ときどきうわさで耳にします。最近では、海外の異端のグループがこっそり入り込んできて、最初は全然わからない。でも気がついたときはすでに遅しで、教会が乗っ取られるということもあったそうです。

もちろんこんなことは起こってほしくありません。そうならないためにはどうするか。それが先ほどの28節です。群れの全体に気を配りなさい。でもその前にまず自分自身に気を配りなさい、とあった。自分自身に気を配ることが、外から入り込もうとする恐ろしい狼を防ぐことにつながる。いったいどうつながるのでしょうか。

3 神

1) ご自分の血を持って買い取られた教会

それでパウロが語っている三つ目になります。自分たちの力でなんとかがんばれというのではない。神が助けてくださる。そもそも教会とはどういう所か。28節の真ん中にこうあります。「神がご自分の血をもって買い取られた神の教会」。十字架で血を流され、神の子の血という尊い代価を払って私たちは罪から買い戻され、キリストのからだである教会に招き入れられたのです。その教会をキリストが見て見ぬふりをするとはぜったいがない。

2) めぐみのみことばによって

神は必ず助けてくださいます。32節。「今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。」パウロは教会のために尽くしてきました。でも限界があります。いつまでもできるわけではない。できないことについては、神と神の恵みのみことばにゆだねていきます。そのとき、教会の助けはどこにあるのか。神のみことばである聖書にある。聖書こそ、私たちの最大の助けだということです。あの人がこう言っている。有名な先生がこう言っている、ではないのです。聖書はなんと言っているか。そこがまず大きなよりどころになる。

では聖書があればそれだけで大丈夫なのか。残念ながらそうはいかない。狼は狡猾です。エデンの園の蛇を思いだしてください。蛇は、九十九パーセント神のことばを語った。ところが、そこに一パーセントの嘘を混ぜる。一パーセントですからそれでもいいのではと勘違いするくらい、実にわかりにくい。これでもいいかと思った瞬間、切り崩されていくのです。そのような事例を私は何度か見てきました。その経験から言うのですが、「なにか変だな」と思ったらその直感を信じてよい、大抵当たっている。

でも自分は変だと気がつくだろうか。みなさん心配になったでしょうか。パウロはなんと言っていたか。「自分自身に気を配りなさい」です。言い換えれば、聖書のみことばによっていつも本物を見ていなさいということです。聖書をただ読んでいけばよいというのではない。みことばを自分に適用していくのです。そうしたら、どうしても罪が浮かび上がってきます。それと同時に神の助け、励ましも教えられる。それこそが本物のクリスチャンの歩みです。よく言われるように、いつも本物ば

かりみていたら、知らない間に目が肥える。小さな偽物が混ざっているとすぐにわかる。だから自分自身に気を配ることが大切だった。

3) 御国を受け継ぐ

そんな私たちはどこに向かうのでしょうか。32節です。「あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。」私たちはどこに向かっているのでしょうか。何をいただくのだと約束されていたのでしょうか。この世の栄誉ですか。この世の富ですか。誰かにほめられることか。そんなものではない。天の御国が私たちの相続すべき財産として約束されている。パウロはそれを心から信じているので、「自分のいのちは少しも惜しいとは思わない」と言えました。

みなさんはどうでしょうか。御国はどこか遠いところで実感がない。御国が大事と言いながらこんなものです。それでも神は見捨てない。すでに私たちはキリストの血によって買い取られたものです。神が私たちを導いてくださる。教会に私たちを集めて倒れないようにしてくださっている。この恵みを覚えてまた御国に向かって進んでまいります。